

# 長崎県幼児教育センターだより



No. 12



2025. 2. 21

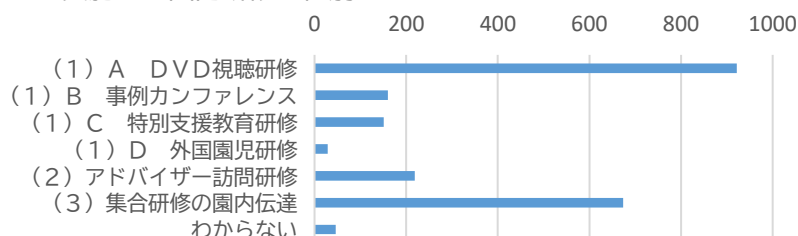


## 「学ぶ保育士等応援事業」 もう申請はお済みですか？

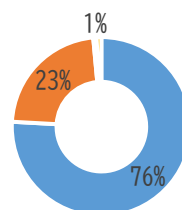
「学ぶ保育士等応援事業」とは、「園内研修ガイドブック」に沿って研修を実施すれば、保育士に2万円の給付金の支給ができる事業です。まだ、申請されていない園は、県や市町にお問い合わせください。（公立園は一部対象となっていない場合があります。）

約2,200名の方から研修後アンケートの回答をいただいておりますので、その内容を少しご紹介します。

実施した園内研修の種別



研修の有益度



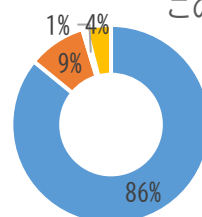
- ・とても役立つ内容だった
- ・まあまあ役立つ内容だった
- ・あまり役に立たなかった
- ・わからない

みんなで同じ映像を見て意見を出し合ったが、視点や捉え方が違って面白かった。  
【DVD視聴研修受講者】

グループワークも組み込まれ、普段忙しなかなか話せない職員とも話す機会にもなって良かったと思う。  
【園外研修の伝達研修受講者】

自園を見ていただいてのリアルなアドバイスがとても参考になりました。  
【幼児教育アドバイザー派遣研修受講者】

この研修の継続希望



- ・今後も、続けたい
- ・これまでの研修と変わらない
- ・このような研修は続けたくない
- ・わからない

## ～幼保小連携推進へ向けて in 南島原市～

去る1月31日に南島原市幼保小代表者合同研修会が開催されました。市内を7つのブロックに分けて現状と課題について意見交換が行われました。日頃から施設長と校長の連携がとれている雰囲気を感じられ、活発に議論がなされておりました。幼児教育と小学校教育の円滑な接続のために、園と小学校、行政が一堂に会し、どのように進めていくか、連携を深めていくことが大切だと感じました。

今回は、施設長・校長対象でしたが、今後は、年長・1年生担任や幼保小連携担当など、いろいろな形で開催することもできます。南島原市として未来を生きていく子どもたちのために幼保小連携が進んでいくことを期待しております。



## 研究発表会がありました！



<研究協議会の様子> 2月12日

長崎県が委託しております、幼保小連携推進事業の2年目のまとめとして、研究協議会が佐々町で開催されました。研究中心園は佐々町第2保育所ですが、協力園・校として、さざなみ保育園、佐々神田保育園、佐々青い実幼児園、佐々小学校、口石小学校と町内4園2校すべてにご協力いただきました。

協議会では、4園の先生方がそれぞれ交流活動を中心に成果や課題を発表する場面がありました。

「子どもたちが顔見知りになった」「先生同士も相談できる間柄になった」「子どもにとってだけでなく、保育者や小学校教員、保護者も安心感がテーマになる」など多くの成果がありました。

最後に活水女子大学准教授 余公裕次先生からは、幼保小連携の歴史や必要性、今後の在り方について講演をいただきました。

右の写真、1月開催の年長同士の交流「にこにこ会」でもありますように、小学校と連携する前に、まずは幼児教育施設間でつながることを意識し、1年目より2年目のにこにこ会を充実させる、そして保育者同士の連携を生かし、小学校へ絵本の読み聞かせへ行くなど職員同士の交流の幅も広がっていました。(文責：高田 敦)



<にこにこ会の様子> 1月15日開催



### 文字と言葉

小学校入学を目の前にして、ひらがなの練習はさせた方がいいのか、させない方がいいのか、よく話題に上ります。保護者からひらがなの練習をさせてほしいという要望が届くこともあると聞きます。

小学校に入ると当然文字を読むことが増えます。そのとき文字が読めるだけでは足りないのです。その文字が表すものの意味やイメージ浮かぶかどうかです。例えば「あさおじかもと」これは読めますね。でも、その言葉の意味は分かりません（私が適当に文字を並べただけだから）。

大事なのは、「にじ」とひらがなが書けることより、空を見上げて虹を見つけ、先生や友達とその美しさに感動する体験を幼児期にできたかどうかです。「つまぐろひょうもん」ビオラに付いている幼虫をご存じですか。黒にオレンジのもようです。一見、毒でも持っているかのように見えますが、大丈夫です。それを飼ってみると、やがてさなぎになります。そのさなぎが光るのです！とてもきれいです。そして、さなぎから蝶になり、飛び立っていきます。その感動を知っていると「つまぐろひょうもん」はただの文字の羅列ではなくなります。

要領や指針には言葉の領域の内容に「日常の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。」とあります。遊びの中で文字に親しむ経験を通して、だんだんに身に付けていくのが本来の姿です。

長い時間机に向かって、まるで小学校の授業のようにひらがなの練習をするか、様々な豊かな体験を通して「生きた言葉」を増やしていくか。幼児期の貴重な時間をどう使うか、バランスをよく考えて取り組まれてください。

(センター長 室野)